

## 平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）【概要】

日時：平成29年10月20日（月）午前10時から正午まで

場所：千葉市ビジネス支援センター 会議室1（きぼーる13階）

### 1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司、小野寺 利幸、藤田 和弘、百瀬 明宏、渡部 徹、関根 寿典、藤ヶ崎 功、佐久間 勝彦、  
田中 庸恵（副委員長）、齋藤 明（委員長）、磯野 和美、大谷 岩男、大田 紀子、金子 基一

### 2 次第

(1) 開会のことば

(2) 県教育委員会あいさつ

(3) 委員紹介

(4) 報告

①平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）の概要について

②平成30年度千葉県県立高等学校入学者選抜実施要項について

③平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について

④平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜の受検意向調査結果について

⑤平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会からの報告について

⑥その他

(5) 協議

①今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

②平成31年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

③その他

(6) 閉会のことば

### 3 報告事項について

④平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜の受検意向調査結果について

・「複数回がよい」と回答した生徒の、前期合格か後期選抜かというクロス集計はやっているか。

⇒クロス集計は行っていない。

・調査を行った学校において、健康を害した場合の受検に関して、保護者に対して通知をしたかということ調査しているのか。また、教員に対して、受検時の健康管理について伝えたかということ調査しているのかを教えてください。

⇒アンケートを採る際、体調が悪い時の対応について、何か情報を与えることはしていない。

### 4 協議内容について

(1) 今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

・これまで3回の専門部会を開催し、学校現場の現状や社会情勢の変化等も踏まえ、受検生にとってよりよい入試制度となるよう、公立高等学校入学者選抜の改善に向けた具体的な調査・研究を進めている。今後の公立高等学校入学者選抜等の在り方について、現行制度の現状と課題について専門部会でまとめた論点整理の資料をもとに協議いただきたい。

・アンケートの中で子どもがけがや病気等で受検をできなかったときの心配がある。複数回を望む理由としておそらく関心が高いのではないかと思われる。県の方で保護者や子どもたちにどのように対応していくか、どのように指導していくかの観点を持っていただきたい。子どもたちのため、保護者のためと考えるのであれば、もう少し注視していただけるとよい。

⇒御指摘のとおりである。受検生が何らかの影響で受検できないような場合については、しっかりと考えていかなければならない。

・専門学科が前期100%可能になったが、前期では希望変更や志願変更は行われていない。郡部の学校の子どもの意識の中には、交通の関係等で私立高校に通える学校がない。どうしても県立高校を選択というケースが多くなる。100%の学科がある場合、前期で埋まってしまうかもしれないので、前期は100%の学校に志願せざるを得ない。チャレンジということで考えると弊害ではないか。また、1本化を望む声として、授業時間の確保の問題が出ている。入試の長期化というより、前倒しになってしまっている。調査書作成等についても、かなりタイトな日程で行わなければいけない現実がある。3学年担当の職員は、ヒューマンエラー等があってはならないので、かなり慎重に点検する。実は、冬季休業は全くなしでやっている現

状がある。仕方がないことかもしれないが、そういった現状も伝えておきたい。

- ・千葉県内で公立高校の受検機会が2回ある。千葉県以外をみると、東京都、埼玉はすでに1本化している。神奈川県は平成25年度に前期、後期の1本化をすでにしている。試験日は、学力検査が2月16日、2週間ぐらい前に出願ができ、出願状況を見た上で志望を1回のみ変えられるというシステムをとっている。その上、面接と実技も含めて2月16日以降の学力検査の後にプラスαの選抜をしている。前・後期型の試験をしている隣接都県がない状況で、千葉は2回やっている意味がどこまであるのか。中学、高校の教育現場で、生徒に2～3週間余分な受検ストレスをかけている。教員にとって、教えることや学校行事について複数の負担が出てくるということを考えると2回を堅持している理由がよくわからない。もっと効率的に考えるべきである。また、けがをしたり、風邪をひいたり、インフルエンザに罹ったりする人は必ずどこかにいるはずである。その場合、公立高校しか行けないというわけではない。いろいろな意味でストレス、負担が減る方向の変更を考えていく方が、千葉県としていいのではないかと。また、クッションを入れるとすると、前・後期でやらなければならないのか。1本化するのか完全に決めなくても、例えば郡部でそこにしか行かないところは、前期だけで1本で決めてしまって終わりというやり方もある。前期・後期と並列する形で、何年かやるというやり方もあるが、いろいろなシステムが混在するのはよくない。また、いろいろな意味で教師が疲れ果てているのは、よくないと思う。生徒も受検ストレスでどんどん疲弊していくことにもなりかねない。
  - ・大学の立場として意見を述べさせていただく。疑問に思ったのは、合格者が前期で60%という制限を加えている学校が多いこと。3万3千人の入学者のうち、60%の2万2千人が1次で合格、その後1万1千人を埋めているが、1万1千人のうちの60%が同じ学校を受けているという事実がある。もう1点は、2月に授業や行事ができないデメリットは大学進学した後も同じである。3年生は高校での学習が終わらず、大学は初年次教育等で高校の授業で終わらなかった部分を補てんすることをしている。それが、高校入試で影響が出ているのであれば、デメリットとして捉えられて当たり前である。中学の学習を終わらせて、高校へ進学するのが本来の姿だと思う。また、入試の時期はインフルエンザが流行り、予防しても少なからずは罹る。大学入試の場合は一切加味しない。入試を受ける段階で健康管理も入試の一つだという考え方は、高校現場の先生方は考えていると思う。高校入試でも健康まで管理していただくのが、一番大事な部分ではないかと考える。専門部会の報告のとおり、前期100%の学校の保護者、生徒もかなり高い割合で1本化がいいといっている。それ以外の学校でも、前期100%であれば同じ結果が出てくるといふ推測も成り立つ。専門部会の意見は、意外と的を射た回答ではないか。
  - ・意向調査の中で「経済的に苦しい」という表記があった。高校無償化の話が出ている。早ければ2年後ぐらいには高校無償化になるのではないかと。私学と公立の学費での差別化はほとんどなくなるはずである。2都県では高校の無償化が始まっている。千葉県にも経済的に苦しい家庭にあっては就学支援制度がある。何らかの形で学習機会を与えることは必要だが、公立高校だけではなく、私立高校も多数ある。こちらとの関係性も必要であろう。高校進学を選択肢として捉えていただき、検討の材料に加えていただきたい。
- ⇒本県の入試は、学力検査による入試から推薦が入り、推薦が特色ある入学者選抜にという形で形態が変わってきた。中学校長からの推薦枠が徐々に増えて、自己推薦、そして、推薦に代わる特色ある入学者選抜という形で、誰でも自己推薦でできるという形で複数回の実施をした。そして、1回は特色ある入学者選抜、もう1回は学力検査等による入学者選抜の2回やる形に変わってきた。その中で60%枠を普通科で、専門学科では選抜枠を徐々に増やしていった。専門学科は最初からその学校に行きたい子が多いので、前期枠を高い割合で設定できるようにしていた。普通科は同じような形なので、60%までを上限として徐々に増えてきた。現状は60%とその残りとなっている。
- ・選抜枠を60%に制限したことによって、3万3千人のうちの1万1千人が、涙を飲んでいるという状態になっているということか。
- ⇒そうである。
- ・入学者選抜が推薦から特色化となったとき、各学校で特色ある学校作りを進める一環として入学者選抜も変えた。約半分近くの学校が学校独自の学力検査であった。一方で、実技系、運動系、文化系の自己推薦型の入試も併せてやっていた。学校独自問題で学力の担保が大きく高校側からもあった。特色化選抜の流れを汲んで、今のような前期選抜に変わったときの議論があった。今年度から各学校の入試の前期選抜の方法がオープンに公表されているが、今年が第1ステージではないか。透明化が図られる第一段階が今年度である。特色化の課題があるが、それをより透明化していくのが現時点であろう。一方で、地域・学区によっては、1回がいいという割合が高い学区があった。通える高校があまりないという課題もある。今年が第1ステージとするならば、次の段階は、より多面的な選抜、よりいろいろな形での受検生の特性を活かせる入試をやっていくかなければならないのではないかと。また、新学習指導要領が、中学校では平成33年度から全面实施。その中で思考力、表現力、判断力の育成が求められている。一方、高校側も高大接続で平成32年度実施の大学共通入学テストから、記述式の導入や英語の4技能の測定が言われている。高大接続の流れの中で大学入試、高校教育の授業改善が求められる。中学校でも同じことが求められているのであれば、高校入試の在り方を考えなければならぬのではないかと。中学校の学習指導要領に則った、高校の学習指導要領を踏まえた入学者選抜を考えたとき、より思考力、判断力、表現力を求めるような入試制度が必要ではないか。今の

ようなタイトな日程では、前期が終わって、後期までの時間が短い。1月からずっと始まっている中での出願から合否、さらには再出願。非常にタイトな日程のことを考えたときに、学習指導要領の改訂、高大接続に伴う改訂とタイトなスケジュールへの1つの解決策として1本化する。ただ、その中には、高校側の特色を生かした形での選抜をより進めるべきではないか。それが大きな教育改革の流れに乗った形の千葉県ならではの入試のスタイルではないか。健康の話があったが、高等学校では実施細目や各学校で作っているマニュアルの中で、保健室であるとか、別室受検をかなり認めて非常にきめ細かく設定している。ただし、1本化した場合には、それを担保するような何かしらの日程を、県の教育委員会の方で少し考えていただきたい。

- ・中教審の特別部会で中学校の先生方の働き方が大変だということで答申が出された。すぐできることから始めようとのことなので、12月29日から1月3日の休日に中学校の3年の担任の先生方が休めないという現実は、そのまま見過ごすことはできないのではないかと。その辺も踏まえてお願いしたい。
- ・本日の委員の方々から意見等を踏まえて、新たな入試制度に向けて試案を作成し、次回の協議会に提案していただきたい。

⇒専門部会の主査・事務局に了解をいただいたとおり、次回の協議会では、新たな入試制度に向けた試案の提案がある。

### (2) 平成31年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程(案)について

- ・平成31年度の入学者選抜の日程については、前期選抜の検査日と2月10日の東京都及び神奈川県私立高校の入学試験解禁日が重ならず、県内の中学生がより幅広い進路選択が可能となるよう考慮して案を作成した。具体的に(案A)及び(案B)の2つを示した。なお、本協議会での意見等を踏まえ、12月の教育委員会会議にて、平成31年度入学者選抜の日程を諮り決定したい。
- ・中学校の校長会で確認し、前期の発表があり、すぐに入学確約書は出せる。後期に提出できる準備期間が欲しいので(案B)がありがたい。
- ・高校側も(案B)がよい。他県や海外からの受検生についても、出願の段階で十分な対応を図っているため、後期出願に向けて中学校側の指導の時間があつた方がよいと思う。
- ・私立側は(案A)と(案B)の違いは前期発表の翌日に入学確約書の締切か、あるいはその次かというだけである。中学校も高校も両者がいいという方でいい。
- ・3者とも(案B)がよいのではないかと意見なので、その方向で進めていただきたい。

### (3) その他

- ・実施要項の5ページにある調査書の換算について。 $X + \alpha - m$  という式で  $\alpha = 95$  で7~8年やっている。これについて、その分析や今後の方向性を専門部会で検討していただきたい。最初はばらつきが多かったが、ある程度適正に成績がつけられてきていると思われる。検討の1つの題材としてほしい。

⇒内容をいくつか整理して検討させていただく。

- ・中学校の関係もあるので、中学校の専門委員の意見もいただきながら検討をお願いしたい。

⇒平成31年度の千葉県公立高等学校入学者選抜日程(案)については、委員長からあつたとおり、年内の公表に向けて、本日の協議会での意見を踏まえて、しっかりと検討させていただく。

また、今後の入学選抜制度の在り方については、様々な観点からたくさんの御意見をいただいた。委員長の方から、専門部会の方で試案の作成を依頼されたので、事務局としても、本日いただいた御意見をしっかりと専門部会に反映できるよう、専門部会の委員の方をサポートしていきたい。専門部会から提案していただいた内容を踏まえ、県としてもしっかりと検討していきたい。